

『標準整形外科学 第11版』正誤表

本書の第1刷（2011年3月15日発行）に以下のすべての誤りが、第2刷（2011年11月1日発行）に*印の誤りが、第3刷（2012年7月15日発行）に●印の誤りがございましたので、ここに訂正させていただきますとともに深くお詫び申し上げます。

2013年8月現在

訂正箇所	誤	正
30頁 左段下から9行目	ピリジノリン (Pyr)	ピリジノリン (PYD)
* 30頁 左段下から6行目	Pyr は	PYD は
* 38頁 右段下から2行目	全容積の4%に過ぎない。	全容積の2%に過ぎない。
109頁 表11-6	膝蓋腱反射 (PSR)	膝蓋腱反射 (PTR)
114頁 左段上から6行目	鷺足滑液包炎	鷺足滑液包炎
165頁 右段下から10行目	Pavlic	Pavlik
169頁 図13-13, 右段下から10行目	腰背筋力	腹腔周囲筋力
190頁 表14-2	超高分子量ポリエチレン	超高分子ポリエチレン
193頁 左段下から11行目	後方椎体間固定術	後方腰椎椎体間固定術
195頁 左段下から6行目	関節過	関節窩
222頁 左段上から6行目	股関節の急性化膿性髄炎	大腿骨近位骨幹端の急性化膿性骨髄炎
222頁 右段上から7行目	100,000/ml	100,000/mm ³ (μl)
242頁 左段上から18行目	E在させない	混在させない
* 243頁 図16-16	左膝	右膝
281頁 左段上から6行目	constitutive	constitutively
320頁 表21-2	デオキシピリジノリン	デオキシピリジノリン
323頁 右段上から11行目	ビタミンD抵抗性くる病・骨軟化症	ビタミンD依存性くる病・骨軟化症
324頁 左段上から1行目	低リン血症性くる病・骨軟化症	低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病・骨軟化症
327頁 右段上から14行目	PTH ホルモン産生過剰	PTH 産生過剰
335頁 右段上から1行目	好酸性肉芽腫	好酸球性肉芽腫
338頁 右段上から3行目	化骨延長法	仮骨延長法
343頁 図22-9b.	①反応性骨硬化を示す位置	※線の左端を7mm上へ移動
358頁 表22-6の前立腺の欄の患者数	男性 1,022 女性 1	男性 1,023 女性 0

	358 頁 右段上から 2 行目, 6 行目	<u>骨形成型</u>	造骨型
	363 頁 表 23-3	悪性線維性組織球種	悪性線維性組織球腫
	370 頁 図 23-5	右第 3 <u>腰椎神経根</u>	右第 3 <u>腰神経発生</u>
	391 頁 表 24-5	尺骨 <u>莖</u> 症候群	尺骨 <u>管</u> 症候群
	403 頁 図 25-1	円 <u>錘</u> 靭帯	円 <u>錐</u> 靭帯
*	412 頁 図 25-15 の a.	棘上筋を指し示す線の位置	※線の左端を 5mm 下へ移動
*	412 頁 図 25-16	<u>このように肩峰下関節に由来する痛みがあり, 後述するインピンジメント徴候が陽性である疾患を総称して肩峰下インピンジメント症候群と呼ぶ. 原因疾患の主なもの</u> は腱板炎, 腱板断裂, 石灰性腱炎などである.	※削除
	416 頁 右段下から 14 行目	calcified tendinitis	calcific tendinitis
	417 頁 右段上から 7 行目	石 <u>圧</u> 性腱炎	石 <u>灰</u> 性腱炎
	429 頁 右段下から 8 行目	上腕骨遠位 <u>骨端線離開</u>	上腕骨遠位 <u>骨端離開</u>
*	430 頁 図 26-8	患肢を <u>左</u> とすると医師は <u>右手の親指</u> を橈骨頭の上に置き, <u>左手</u> で前腕をつかむ. 親指で橈骨頭を背側に押さえ, 前腕を回外しながら肘を屈曲するとコクツとした整復感を触れる.	患肢を <u>右</u> とすると医師は <u>左親指</u> を橈骨頭の上に置き, <u>右手</u> で前腕をつかむ. 親指で橈骨頭を背側に押さえ, 前腕を回外しながら肘を屈曲するとコクツとした整復感を触れる.
*	438 頁 左段上から 18 行目	サラゾスルファピリジンなど) <u>生物製剤</u>	サラゾスルファピリジンなど) <u>や生物製剤</u>
	446 頁 図 27-14 の説明	<u>(32) 長/短橈側手根伸筋 extensor carpi radialis</u>	(32) 橈骨神経深枝 deep branch of radial nerve (33) 長/短橈側手根伸筋 extensor carpi radialis
	446 頁 図 27-14c.	<u>(14)</u>	(32)
	446 頁 図 27-14c.	<u>(32)</u>	(33)
	455 頁 右段上から 4 行目	peri-lunate	perilunar
*	459 頁 図 27-33a. の説明文	中央索の <u>断裂</u> により	中央索の <u>断裂(または伸長)</u> により
*	470 頁 右段下から 5 行目	尾 <u>椎</u>	尾 <u>骨</u>
*	474 頁 左段下から 12 行目	環椎横靭帯 <u>transverse ligament</u>	環椎横靭帯 <u>transverse ligament of atlas</u>
*	474 頁 左段下から 4 行目	<u>大きく外側へ出て</u> その後,	<u>大きく外側へ出て(図 28-3),</u> その後,
*	474 頁 右段下から 11 行目	<u>脊柱管外に出る.</u>	<u>脊柱管外に出る(図 28-5).</u>
*	474 頁 右段下から 5 行目	<u>一段と強くなる.</u>	<u>一段と強くなる(図 28-6).</u>
*	474 頁 右段下から 3 行目	<u>原因となる(図 28-5).</u>	<u>原因となる.</u>
*	475 頁 左段上から 6 行目	13mm 以下のものをいう(図 28- <u>6</u>).	13mm 以下のものをいう(図 28- <u>7</u>).

*	475 頁 左段上から 10 行目	(pincer action) <u>という(図 28-7).</u>	(pincer action) <u>という.</u>
*	476 頁 右段下から 8 行目	小指 <u>屈曲外転麻痺</u>	小指の <u>指離れ徴候</u>
	477 頁 図 28-9	C7-C8 間	C7-T1 間
*	478 頁 左段上から 7 行目	口頭で <u>のみ軽度の運動を加えて疼痛出現の有りようを調べるだけにする.</u>	口頭で <u>頸椎の運動(伸展や伸展側屈)を指示し, 疼痛出現の有無を調べる.</u>
*●	479 頁 左段上から 13 行目	… <u>触圧覚障害があれば…</u>	… <u>触圧覚障害がなければ…</u>
*	480 頁 左段上から 1 行目, 5 行目	<u>肩板損傷</u>	<u>腱板損傷</u>
*	480 頁 NOTE	指離れ <u>現象</u>	指離れ <u>徴候</u>
*	481 頁 右段上から 14 行目	<u>圧迫症状</u>	<u>圧迫所見</u>
	488 頁 左段上から 8 行目	<u>線維性攣縮</u>	<u>線維束攣縮</u>
*	489 頁 左段上から 6, 9, 10 行目	<u>肩板</u>	<u>腱板</u>
	493 頁 右段上から 10 行目	<u>線維性攣縮</u>	<u>線維束攣縮</u>
	558 頁 左段下から 1 行目	<u>頸部から骨幹の内側の</u>	<u>大腿骨頸部から骨幹内側の</u>
	558 頁 右段上から 1 行目	<u>大腿骨距 calcar femorale</u>	<u>Adams(アダムズ)弓</u>
	561 頁 左段下から 13 行目	<u>頸部から骨幹の内側の厚い強固な骨皮質部を大腿骨距 calcar femorale あるいは Adams(アダムズ)弓という.</u>	<u>前内方に弯曲(前捻)している大腿骨頸部内側の厚く肥厚した骨皮質を Adams 弓という. また X 線側面像で大腿骨内を大腿骨頸部後内方から小転子下方(大腿骨骨幹部内方骨皮質)に垂直に延びる密な骨梁(海綿骨)を大腿骨距 calcar femorale という. この大腿骨距は時に Adams 弓と混同して用いられるが, まったく別の組織であるので注意を要する.</u>
	586 頁 右下の NOTE 下から 3 行目	<u>高齢者が増え, 糖尿病の頻度が欧米並みになっているので, 今後いわゆる一次性股関節症の存在も念頭に置く必要がある.</u>	<u>※削除</u>
*	589 頁 図 31-46 の b.	図中の①, ④B, ④C の文字の位置	<u>※それぞれ 10mm 下へ移動</u>
	606 頁 左下の NOTE 下から 6 行目	<u>この骨溶解を防止するにはまず摺動面におけるポリエチレン磨耗粉の発生を防止することが先決であり.</u>	<u>※(重複のため)削除</u>
	657 頁 左段上から 9 行目	<u>虫様筋</u>	<u>虫様筋</u>
	658 頁 図 33-9	⑪開帳足	⑪開張足
	704 頁 右段上から 6 行目	<u>外傷性骨化性筋炎</u> <u>traumatic myositis ossification</u>	<u>異所性骨化</u> <u>heterotopic ossification</u>

	704 頁 右段上から 9 行目	関節周囲の筋肉の中に骨化が生じるもので、 <u>挫滅された筋肉内の血腫の異所性骨化 heterotopic ossification</u> である	関節周囲の、主として筋肉に生じる病的な骨化をいう
	705 頁 図 34-41	股関節脱臼骨折治療後の外傷性骨化性筋炎	股関節脱臼骨折後の異所性骨化
	748 頁 図 36-37	前柱(赤色)と後柱(緑色)。	前柱(緑色)と後柱(赤色)。
	768 頁 図 36-66	a. 回外- <u>内</u> 旋骨折 b. 回外- <u>外</u> 旋骨折 d. 回 <u>外</u> -外転骨折	a. 回外- <u>外</u> 旋骨折 b. 回外- <u>内</u> 転骨折 d. 回 <u>内</u> -外転骨折
	772 頁 左段下から 22 行目	(→ <u>559</u> 頁の図 <u>31</u> -4 参照)	(→ <u>655</u> 頁の図 <u>33</u> -4 参照)
*	844 頁 右段上から 5 行目	(内側 <u>縫</u> アーチの低下)	(内側 <u>縦</u> アーチの低下)
*	857 頁 図 41-1	<u>機能障害</u>	心身機能・身体構造
*	891 頁 左段下から 17 行目, 7 行目	<u>加重</u>	荷重
	893 頁 右段上から 10 行目	total surface contact (<u>TSB</u>) 型	total surface contact 型
*	893 頁 右段下から 12 行目	<u>加重</u>	荷重